

授業科目	生理学Ⅳ				
担当者	伊禮まり子（実務経験者）				
実務経験者の概要	理学療法士として、慢性期病院、老人保健施設での勤務経験あり。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

身体運動において、生体内の各種機構がどのように働いているかを講義する。

■ 到達目標

運動生理学の基礎的な知識および考え方を身につけ、運動時の生体内の変化、およびトレーニング効果について説明できることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 運動と筋骨格系 (1)
- 第3回 運動と筋骨格系 (2)
- 第4回 運動と神経系 (1)
- 第5回 運動と神経系 (2)
- 第6回 運動と神経系 (3)
- 第7回 運動と呼吸 (1)
- 第8回 運動と呼吸 (2)
- 第9回 運動と循環 (1)
- 第10回 運動と循環 (2)
- 第11回 運動と代謝
- 第12回 運動と栄養
- 第13回 運動学習とトレーニング
- 第14回 運動と発育・発達・加齢
- 第15回 総括

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）90%】、小テスト10%に授業態度を併せて評価する。
 欠席・遅刻・早退は減点の対象とする（欠席：-4点、遅刻・早退：-2点）。
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間のみでは理解は深まりません。授業後には講義内容をまとめる、小テストの復習をする等、自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書名：運動生理学20講 第2版

著者名：勝田 茂

出版社：朝倉書店

書名：リハビリテーション運動生理学

著者名：玉木 彰（監修）、解良武士（編集）

出版社：メジカルビュー社

書名：運動生理学の基礎と発展

著者名：春日規克・竹倉宏明

出版社：フリースペース

書名：改訂 身体活動と体力トレーニング

著者名：藤原勝夫・外山寛

出版社：日本出版サービス

書名：身体機能の調節性

著者名：池上晴夫

出版社：朝倉書店

書名：姿勢制御の神経生理機構

著者名：藤原勝夫

出版社：杏林書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

運動・動作を治療手段とするセラピストにとって、運動生理学は自らの治療が生体機能に及ぼす影響を理解する基礎となります。1年次の生理学や、2年次の生理学実習とリンクする内容でもありますので、しっかりと学んでください。